

http://www.kumesekei.co.jp/

## 世界の設計事務所とも 対等に勝負できる海外事業 求められるデザインソリューションと スピード感

建設投資額が、いまや世界一の中国、GDPが上昇するベトナムや海外からの投資を含めて建設事業が活発化しているフィリピンやインドネシア。久米設計では今、これらの海外市場に新たな活躍の舞台を求め、積極的に進出している。文化や習慣は異なるが、ここでも創業以来の精神である「デザインと技術の融合」が大きな競争力となっている。海外進出で中心的な役割を果たす4人の話を軸に海外の現状とそこで求められる人材像を聞いた。



都市と自然をつなぐ媒体として  
計画・実現した上海パークプレイス



ホーチミンのブルマンホテル（工事中）

久米設計では、1970年代後半からODAを中心に海外市場に進出し、中国や東南アジアでの建設投資が活発化するのに伴って2009年、ベトナムに現地法人 KUME DESIGN ASIA Co.Ltd (略称: KDA)、2011年4月には中国に KUME DESIGN CHINA Co.Ltd (略称: KDC) を設立した。KDAが南アジア、KDCが東アジアを担当している。

その経緯や現地での活動状況などを語るのには、KDCの董事長（会長）で取締役執行役員設計本部副部長の豊永正登氏、KDCの董事・総経理（社長）の中本俊也氏、KDAとKDCを本社サイドで統括している執行役員開発マネジメント本部副部長兼国際マネジメント部統括部長の吉田博氏、本社でKDAとKDCのデザインマネジメントを担当する執行役員設計本部設計長の安東直氏の4人。

### 国際コンペで強みを発揮する 「デザインと技術の融合」の創業精神

海外進出のきっかけについて豊永氏は、「国内の建設投資が年々減少する中、アジアの設計会社として海外へと活躍の場を広げる必然性があった。アジアのニーズは『ジャパンプクオリティ』であり、それを実現する『デザインと技術の融合』を武器にグローバルに展開してきた。海外事業での比率を15%まで高めるのが当面の目標だ」と語る。

1990年代後半から国際コンペに参加するようになったのを皮切りに2002年には、中国の上海や重慶に活躍の場を広げた。KDAでは、ハノイに本社、ホーチミンに支社を置き、周辺アセアン諸国も活動領域となる。

「これらの国々で共通しているのは、公共建築だけでなく、民間の大型プロジェクトでも国際コンペで設計者を選ぶ。行政が決めたグランドデザインの中でそれぞれのプロジェ

クトが位置付けられている。また審査では、どのような点を評価したかといった着眼点に加えて、プロセスを重視しているのが特徴である」と中本氏。

だからと言って保守的ではない。「例えば、上海の建築は一見すると派手なように見えるが、新しいものを恐れない、むしろこれまでにないデザインソリューションを求めている。ここに固定概念にとらわれない若い社員の活躍の場がある」と安東氏は話す。同時に求められるのが技術力だ。例えば、従来にないデザインや新たな試みをどのように技術的に成立させるか。ここで、デザインと技術の融合を追求してきた久米設計の強みが発揮できる。柔軟な発想力で挑む若い社員と経験に裏打ちされた中堅技術者とのチームワークが強みとなる。さらに、国際コンペでは、その国の文化や風習を理解したうえで、ニーズを読み解き、提案することが不可欠だが、同じアジアの国であるという利点もある。

### 超高層複合施設や大規模開発 一大スケールのプロジェクトが目押し

国内と大きく異なるのは、そのスケールだ。海外では国内に比べひとケタも二ケタも上回る大型プロジェクトばかりだ。

例えばオフィス、商業施設、ホテルで構



久米設計とKDAおよびKDCとのネットワーク



本社内のサロンにて。左から中本俊也氏、安東直氏、豊永正登氏、吉田博氏

成する上海パークプレイスは、高さ200m超、延べ床面積が20万㎡を超える。ハノイでは500haに及ぶ自然の地形を生かした造成地に住宅を建設するエコパークを手がける。しかも、これらのプロジェクトは、3週間から1か月程度でコンペ案を提出。その後の着工に向けて短期間に設計をまとめていくエネルギーな過程は、まさにそうした国々の発展過程を体現している。「若い社員ならではの、熱意とスピード感が発揮できる場でもある」と吉田氏は語る。

海外の設計事務所と勝負できるのも国際コンペならではの。「欧米の著名な組織事務所と他流試合ができる。審査はすべてオープンで同じ土俵で勝負できるという貴重な経験の場でもある」と安東氏は語る。久米設計は、そうしたチャンスをどんどん若い社員にも与え、デザイン力・技術力の強化を目指した人材育成にも力を入れている。その一環として海外留学制度も用意されている。

「海外に出れば、逆に長短を含めて日本のことが良く分かるのと同時に、会社と自分自身のポジションが見えるようになる。その意味でも若いうちから海外で経験を積むことは重要であり、久米設計では海外で大いに活躍したいという若い社員を求めている」と吉田氏は話す。